

社会的な見方・考え方を育む社会科教育

— 問題解決能力の育成を通して —

1 単元のねらい

古い道具の特徴や変遷、それに伴う人々の生活の変化について具体的に調べ、過去の生活における人々の知恵や工夫、古い道具に込められた人々の願いと現在の生活とのつながりについて考えることができる。

2 授業構想

(1) 子どものとらえと資質・能力について

以下に示すふりかえりは1学期「わたしたちの市のようす」の学習で、まちの様子の違いについて話し合いを行った時間の学習のまとめとして振り返ったものである。

今日、社会科がありました。バス探検で行った第1ポイント（浜佐陀）と第5ポイント（東松江）のまちの様子が違う理由を考えました。東松江に工場が多いのは、近くに駅があるからだと思います。電車を使って、工場ですぐ材料が運べるからです。また、工場で作った物も遠くの町に早く運べます。近くに海があるから船でも荷物を運べます。ここは駅や港が近くにあつて材料や荷物を運びやすいから工場が広がっているんだと思います。
(児童A)

この単元の学習では、前単元「わたしたちのすむまち」で行った学び方を生かし、実際に自分の目でまちの様子をつかむため、バスを利用したまち探検に出かけた。また、それぞれのまちの様子が違う理由について考える際には、地形や交通、人の生活の様子など、自分が調べた事実と関連付けながら話し合う活動を繰り返し行った。問題解決をしていく際には、実際に体験をすることや事象を比較・関連づけて考えることで社会的事象の意味をより多面的に理解するという経験を積み重ねてきている。

本学校園社会科部では「社会的な見方・考え方を働かせながら、問題解決をする力」を身につけさせたい資質・能力として掲げ授業実践を行っている。この単元で見られたように、体験や調査活動によって得たことをもとに、それらを比較・関連付けたりしながら、見いだした問いについて主体的に追求し、問題解決をする姿を大切にしたい。

本単元は古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていた頃のくらしの様子について学習する。子どもにとって初めて出会う歴史学習であり、時間軸的に現在と離れた学習内容となる。これまでの学習内容に比べイメージをもちにくく、難しいといった感想をもつことが予想される。そこで、学習を進める上では、古い道具の中でも子どもにとって身近なものを出会わせる工夫や、自分の両親や祖父母に話を聞くこと、実際に道具を使うといった具体的な調査・体験活動を大切にする。また、学習を通して道具の変遷だけでなく、それに伴って地域の人々の生活がどのように変化していったのか考えることができるようにする。そして、地域の人々の生活の変化や道具に込められた願いを考えるを通して、自分たちの生活が祖先の努力や工夫の上に成り立っていることに気付き、祖先や地域の人々への思いを馳せることができるような姿を目指したい。

(2) 資質能力を育むために

○社会的事象の見方・考え方の基礎を獲得するための工夫

導入では1930年代と現代の調理場の様子を比べることや、七輪を使った体験活動を行いながら、子どもの問いをもとに、単元を貫く課題を設定し学習を進める。その後、食事、暖房、掃除、洗濯、あかりなどの班に分かれ、調査・体験活動を行う。道具調べカードを使いながら道具の用途ごとに分かれて調べることで、道具の特徴や変化の仕方により注目できるようにする。また、祖父母に道具を使っていた当時の体験談などを聞き、道具の変遷と合わせて年表にまとめる。道具調べカードや年表で、道具の特徴や変遷、くらしの様子に対する気づきを可視化することで、道具とくらしの関係に気付けるようにする。

○社会的な見方・考え方を働かせるための工夫

本時の学び合いの場面では、班で用途ごとに作成した道具年表を比較しながら、道具の変化の仕方の共通点を考える。変化の仕方の共通点を考えることを通して、どのようにくらしの様子が変化していったのか気付くとともに、「くらしをもっと快適に、豊かにしたい」という道具に込められた共通する人々の願いについても考えていけるようにする。また、学び合いの場面の後には、100円ショップに売られている洗濯板を提示しながら、古い道具が現代でも使われている理由について考える。これまでに獲得した社会的な見方・考え方を活用する場面を設定することで、この活動を通して、「昔の人々の工夫や努力が今の自分たちの生活を豊かにしている」ことや「現在の方が昔の道具に付加価値を付け、くらしをもっと楽しくしている」ことについての気づきを深めていけるようにする。

○視点を明確にしたふりかえりの工夫

ふりかえりの場では、「道具を使った感想や当時を知る人から聞いた話」、「調べてつかんだ古い道具の特徴や工夫点」など、調査・体験活動で得た気づきを大切にす。また、本時で「道具の変化によって、人々のくらしがどのように変わったのか」というめあてに対して振り返る際には、「めあてに対して自分が考えたこと」、「自分の考えの参考になった友だちの意見」といった視点を明確にする。単元を通して道具の特徴やくらしについて思考・判断したふりかえりをくり返し行うことで、道具の変遷と生活の変化の関係性をとらえると共に、昔の道具と今の自分の生活との関わりについて考える姿を目指す。

3 展開計画（全11時間）

次	時	主な学習と具体的な学習・内容	◇願う子どもの姿
1	1 2・3	○60年前と今の調理の様子を比べたり、七輪での調理体験をしたりしながら、生活の様子の違いや古い道具に関心をもつ。 ・「60年前の調理の様子」と「現在の調理の様子」、から生活の様子が違う理由について考える。 ・七輪を使った調理体験をしながら、七輪の特徴や工夫について考える。	◇七輪での調理体験から、古い道具の特徴や使い方について考え、関心を深めている姿
2	4～7 8・9 10	○美保関歴史・体験資料館で追体験をしながら古い道具の特徴や変遷の過程、使い方、工夫について調べる。 ・コテアイロンや石臼曳きの追体験、あかりや暖房、洗濯、掃除に使う道具を調べ、古い道具の特徴や生活の様子について考える。 ・古い道具の変遷とくらしの様子を絵カードや年表にまとめる。 ・道具の変化の仕方の共通点を探りながら、どのように人々の生活が変化したのか考える。	◇調べたことや体験したことから、道具の変遷と生活の変化についてまとめている姿 ◇生活の変化について道具に込められた工夫の共通点や願いと関連づけながら考えている姿
3	11	・現在でも古い道具が使われている理由について考える。	◇古い道具に込められた願いと、現代の新たな知恵を関連づけている姿

4 授業の実際

(1) 60年前と現在の調理の様子を比べ、問いをもつ

① どうしてこんなに調理の様子が違っているのだろう（第1時）

本単元は60年前の生活の様子の写真資料（図1）を提示することから授業を始めた。初め、資料の右側を隠して提示した。すると、「火をつけているのかな」、「お湯をわかしていると思う」というような意見が出てきた。その後、隠していた部分を見せると、「やっぱりご飯を作っていたんだ。」と納得する様子が見られた。その一方で、「今と全然違う」、「昔は大変そう」という意見も出てきた。そこで、教師から「60年前と今の調理の様子は違うのだろうか」と問い返した。ほとんどの子どもが「全然違う」と言った後で、図2の60年前と今の調理の様子がわかる資料を提示し、比べる活動を行った。気付いたことを共有した際には「これはおじいさんの家で見たとある」、「名前がわからないけれど、部屋を暖める道具だ」というように活発な意見の交流が見られた。また、共有後に「どうして暮らしの様子がこんなにも違うのだろう」と尋ねた際には「物が発明されたから」というように道具に着目した意見が多く出た。そこで、資料から子どもが見つけた七輪を提示し、「昔の道具についてさらにくわしく調べよう」と投げかけ本時を終えた。



図1：導入で提示した写真



図2：比較した資料



図3：体験の様子

② 七輪はどんな道具なのか、実際に使ってみよう（第2・3時）

第2・3時では、子どもたちの祖父母に協力をしてもらい、七輪を使って、ししゃもや餅を焼く体験活動を行った。また活動後に60年前の当時の生活についてインタビューをする時間を設定した。以下は学習後のふりかえりである。

今日、七輪をつかって感じたことは、炭に着火することがかなりむずかしいということです。すぎの葉を入れて新聞紙に火をつけるとき、すぐに消えてしまって、大変でした。なんとか新聞紙に着火して、やっとつきました。炭を新聞でまくというコツを聞きおどろきました。昔の生活についてしつもんしたとき、七輪でにることもしていると聞いてすごいと思いました。ほかの昔の道具についても調べてみたいです。（児童C）

実際に体験をすることによって、七輪の使い方や工夫された点を理解することができた。一方で、七輪を使う難しさについても体で感じるすることができた。児童Cのふりかえりからわかるように、体験活動や当時の生活の様子を聞く活動を設定したことで、昔の生活への驚きや今の生活との違いを感じるとともに、古い道具と昔の生活に対する追求意欲をさらに高めることにつながった。

(2) 古い道具の特徴や工夫されている点について考える

① 昔の生活を体験しよう（第4～7時）

第4～7時では美保関歴史・体験資料館に行き、織り機や石臼曳き、コテアイロンなどの古い道具を使った昔の生活体験を行った。また、掃除、照明、洗濯、炊飯、調理、暖房、服のしわを伸ばす道具のグループに分かれ、古い道具の特徴や工夫された点を調べた。以下は学習後のふりかえりである。

今日、昔の生活の体けんをしました。昔のこてアイロンや石うす体けんをさせてもらいました。どの道具もおもしろさとすごさがありました。ぼくは昔の人のちえは、みんなが「和のエジソン」のようだなと思いました。それくらいおどろく道具を電気も機械もなく自然のものだけで作っているなんてすごいと思いました。昔の人のちえや考え、工夫を知って、昔の人は現代人よりも頭がよいようにもかんじました。(児童D)

体験活動において詳しく調べる道具を決めて調査活動をすることで、児童Cの「昔の人の知恵は和のエジソンのよう」という考えのように、昔の人の知恵や考えに思いを馳せる姿が見られた。また、古い道具に込められた先人の知恵に気づき、古い道具の特徴についての気づきを深めることができた。

② 見つけた古い道具の特徴や工夫点を絵カードにまとめよう (第8・9時)

第8・9時では体験や調査活動を通して見つけた古い道具の特徴や工夫点に着目し、1人1人が絵カードにまとめていった。その後、グループで集まり、道具の特徴や工夫点についてさらに書き加えながら、道具の用途ごとの年表を作っていた。一人一人が自分が調べた道具についての年表を持ち、道具の特徴や変遷を可視化することで、道具の変わり方やそれに伴うくらしの変化に対しての気づきを促した。

(3) 道具の変遷と人々のくらしの変化について考える。

第10時ではこれまでに作った用途ごとの道具年表を一つにまとめ、道具の変化の仕方の共通点を考えていった。まず、グループごとに前時に作成した用途ごとの道具年表を見ながら、道具がよりよくなったところについて意見を出し合い、その後全体での話し合いを通して気づきを共有していった。以下は第10時の話し合う場面の記録である。

T : 道具でよくなっているところを確認しよう
児童E : 炊飯器で進化、変化したことは薪からガスになって手間がかからなくなった
児童F : いろいろから七輪になって持ち運べるようになった
児童G : アイロンは充電ができるようになって機能がよくなった
T : なるほどね。こんなところがよくなっているのか。でも機能が付いたら何がいいの？
児童H : 楽になるし、便利になる
児童I : エアコンだとタイマーがついているから自分で消さなくてもよくなる
児童J : でも機能がなくても、全部は使わないから……。必要ないと思う
T : じゃあ掃除機も今使っているものじゃなくて、前のままでいいんじゃない？なぜ今の掃除機の方がいいの？
児童K : 必要な機能がついて便利になったから
児童L : この機能を付けてほしいという人がいたから付けた。そうじゃなかったら付けない
T : 誰が付けてほしいと思っている？
児童M : お客さん。作る人もかも
(中略)
T : 洗濯に使う道具のグループはどうだったかな？
児童N : 川にもって行かなくてもよくなったから手間がかからなくなった。
児童O : あっ手間がかからなくなったところが共通している
T : 今、共通しているって言ったね。他にも共通しているところはあるかな。
児童P : どの道具もだんだん楽になってきている
児童Q : ほとんどが電気で動くようになって簡単になっている
児童R : 炊飯器も手間がかからなくなっている
児童S : わあ、また共通点が出てきた。

道具の変化についてよりよくなっている点を共有していく際、途中児童Jのように「使わない機能もあるから道具を変化させる必要はなかったのでは」という意見が出た。そこで、道具が変化した理由を聞く中で下線部のように問い返すはたらきかけを行った。そうすることで、道具の変化には「もっとくらしをよくしたい」といった使う人や作る人の願いが込められていることに気付く姿に繋がった。また、子どもの気づきをもとに、共通点を見つけるよう提案するはたらきかけを行った。その結果、道具の変化の仕方には、「楽」、「簡単」、「安全」、「早い」といったような共通点あることに気付くことができた。最終的には図4のように道具の変化と

人々のくらしの関連性を理解し、学習を終えた。以下は第10時終了後の児童のふりかえりである。

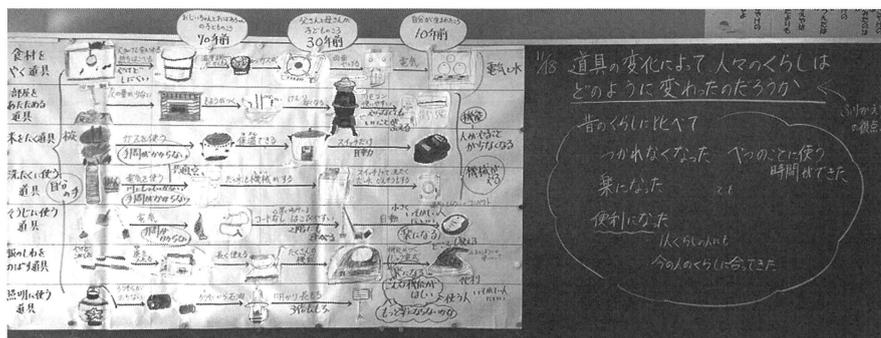


図4：第10時後の授業の板書

それぞれの道具の変化の仕方を比べながら共通点について考えることで、道具の変化と人々のくらしの移り変わりとの関連性をより多面的に考えることができた。また、道具が変化する理由についても考えたことで、全ての道具には「もっとくらしをよくしたい」という人々の願いが込められていることへの気づきについてもさらに深めることができた。

(4) 現在も古い道具が使われている理由について考える。

第11時では100円ショップで売られている改良された洗濯板をもとに、なぜ古い道具が今も使われているのかを考えた。以下は子どものふりかえりである。

今日、思ったことは昔がないと今はなかったということです。理由は今のせんたく板は今の考えと昔の人の考えがつながっているからです。昔の人の考えやちえは、今の生活にも使われていて、けっしてなくなっていないことがわかりました。
(児童T)

前時にまとめた道具年表や古い道具を使った体験などをつなげて考えることで、「もっとくらしをよくしたい」という願いが今の改良された洗濯板にも込められているということに気付いた。また、昔の人の知恵や考えは今の道具にもしっかりと込められているという考えをもつことにもつながった。

5 おわりに

本単元では、子ども自身が見いだした問いを子どもたちが主体的に追求し問題解決をする姿を目指し実践を行った。まず初めに成果を述べる。1つは、出会わせる学習対象を工夫したことにより、子どもの主体的な追求の姿が見られたことである。単元の初めでは、学習対象として数ある古い道具の中でも「七輪」に出会わせた。五感に訴える体験活動をしたことで、道具の特徴や工夫点に着目するだけでなく、古い道具と昔の生活について主体的に追求する原動力となった。学習対象を考える際、子どもに「何を」、「いつ」、「どのように」出会わせるのかという視点は今後も大切にしたい。もう1つは、事象間の関係性を可視化しながら話し合う活動を行ったことである。第10時において年表を使いながら道具の変わり方の共通点について考えたことは、事象間の関係性に着目すること、社会的事象の背景には人の思いや願いがあることに気付くことにもつながった。社会的な見方・考え方が深まった姿と言える。一方で、第10時のグループ活動の際、子どもたちの活動が停滞する場面があった。「何について考えるのか」授業者の声かけが抽象的になったためである。話し合う場の設定だけでなく、話し合う視点や考える方法を吟味し、今後も子どもの社会的な見方・考え方が深まるよう授業実践をしていきたい。

(文責 藤原 良平)